平成２４年度　主題研修計画

⑴　研究主題及び副題

研究主題「確かな読みができる児童を育てる国語科の授業」

～読み取りのスキルを明確にした授業実践を通して～

⑵　主題設定の理由

①　教育の今日的課題から

昨年度より新学習指導要領が完全実施となり、新学習指導要領の趣旨を生かした教育課程の円滑な実施が急務の課題である。

２１世紀は、「知識基盤社会」の時代であると言われている。知識基盤社会、グローバル化の時代においては、確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和のとれた「生きる力」をはぐくむことがますます重要になっている。また、OECD の PISA 調査など各種の調査から、我が国の児童生徒について、思考力・判断力・表現力などを問う読解力や記述式問題、知識・技能を活用する問題に課題があることなどが指摘されている。

このような状況を受けて、新学習指導要領では、改訂の基本方針の一つとして、「知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視すること。」が挙げられた。基礎的・基本的な知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成を図る上で、基盤となるのは言語に関する能力であり、その中核となるのは国語科である。国語科における目標は、「国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし、国語科に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。」ことと記されている。今回の学習指導要領の改善の特徴は「多様な言語活動の充実」であり、国語科で習得した力を他教科・領域に、その特性を活かして積極的に活用することが求められている。

子どもたちは常に他者と言葉を介して関わりをもちながら様々な人間関係の中で生きている。そこで、互いの立場や考えを尊重し、言語を通して適切に表現したり正確に理解したりする力、つまり「伝え合う力」が重要になる。この「伝え合う力」をより高めていく中で、思考力や想像力、言語感覚も養われ、子どもたちは自己形成が図られ、社会性がはぐくまれると考えられる。各教科・領域等での教育活動を通して子どもたちの「伝え合う力」を育成する取組が強く求められている。

②　研究の経緯

一昨年度は、「話すこと」「話し合うこと」の個人の技能をより定着させ、児童相互の意見や考えを交流する場を意図的に設定し、児童一人一人が意欲的に話合いに参加し、話合いを活性化させたいと考え、研究主題「自分の考えを豊かに表現できる児童の育成」のもと、国語科に焦点を当て研究に取り組んだ。また、発表や話合いの充実を目指す言語環境を整備したり、「話すこと」の技能を活かす日常活動を設定したりして、自分の考えを豊かに表現できる児童の育成を図った。

昨年度はより豊かな表現力を目指して同一主題のもと、「話す技能」の一層の定着を図る国語科の授業実践と言語環境の整備と充実に努めた。この一年間の研究の結果、一定の成果は見られたが、研究全体を振り返ってみたときに、さらなる基礎基本の定着に重きを置くことが必要であるということが課題として浮上した。そこで、いくつかある基礎基本の内容の中でも、特に「読解力」の向上が必要であることを全職員で共通理解した。

③　児童の実態

本校は児童数９１名の小規模校である。児童は純朴で人懐っこく思いやりがあり、学習や様々な活動において決められたことに対しては、真摯に協力し合って取り組むことができる。学級内での児童相互の結びつきが強く、異学年間でも児童同士は気心が知れているところがあり、親しく交流することのできるよさがある。一方では、人間関係が固定化しやすく互いに切磋琢磨しようという気概に欠ける面があることは否定できない。

発表に関しては、相手を意識して敬語を使って話したりすることは身に付いてきている。一方、公的な場においての挨拶、意見発表など、自分の考えや思いを伝えることについて、意欲的にはなってきているが、自信をもちきれていない児童がまだ見られる。

学習面においては、学力向上が喫緊の課題となっている。特に読解力、即ち文章などから必要な情報を取り出す「読む力」、テストや問題解決学習などにおいては、題意を正しく理解し問題に取り組む力が十分身に付いていないために、問題に正しく答えられなかったり、自分の考えたことや意見などを表現する、「書く力」「話す力」にも影響を及ぼしたりしている。そのために教科の学習における基礎・基本の定着や活用力が不十分であったり、授業に深まりが見られず、内容の理解や考えを深めることにつながりにくかったりする実態がある。

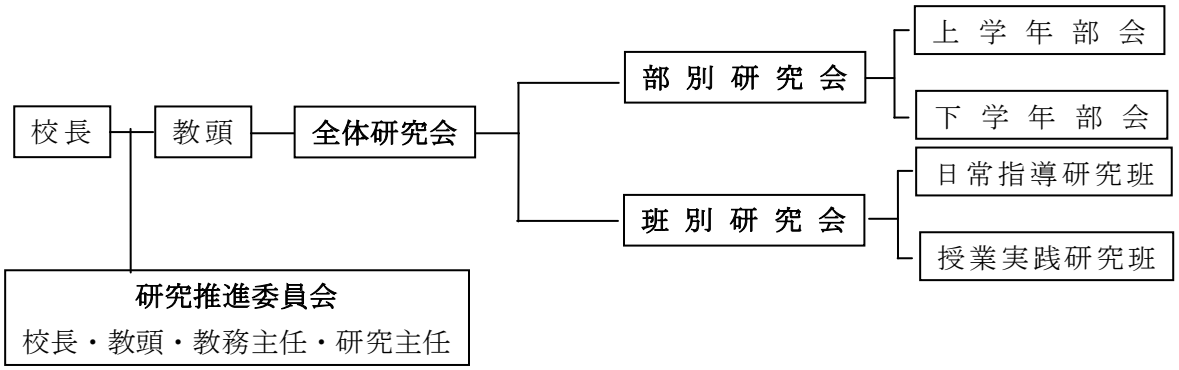
以上のことを踏まえて、本年度は、研究目標として、正しく読み取る力の定着を図る国語科の授業実践と基礎・基本の定着を図る日常指導の充実を図っていきたいと考える。

⑶　研究の目標

○　正しく読み取る力の定着を図る授業実践とそれに関わる基礎・基本の定着のための日常指導の充実を通して確かな読みができる児童を育成する。

⑷　研究仮説

①　国語科の授業において、正しく読み取るためのスキルを明確にし、それらを指導過程の中に適切に位置づけていけば、文章を正しく読み取ることができるようになるだろう。

②　国語科における読解力の基盤となる基礎・基本を語彙力、書く力、話す力ととらえ、これらの基礎・基本の定着を図る日常指導の充実を行っていけば、読解力を高めることができるだろう。

⑸　研究組織